

神社のしめ縄は神の領域と現世を分け隔てる「結界」として、なわばりを指し示す。しめ縄の由来は、古事記に書かれた天照大神の神話だと言い伝えられ、その昔、岩戸にこもった天照大神を神々が連れ出した際にもう岩戸に入らないようにと岩戸にしめ縄をつけたことに由来すると伝えられます。

自宅の正月飾りであるしめ縄ゴボウ縄めは年神様を受け入れる支度として飾るものであるため、年末の内にご用意するのが作法です。ゴボウ縄め・玉飾り・輪飾りなど様々な形のものが伝えられ、一般に二十八日頃に飾り始めるのが慣例。正月飾りを片付けるのは、年神様が戻る日である『松の内が終わつた直後』だといわれています。松の内



「出雲そば」は、日本三天そばとも称され、出雲地方の伝統食です。「挽きぐるみ」といって玄ソバの殻ごと製粉し、殻に近い部分が他の地方よりも多く含まれている為、色が濃く、香り・味が強く、春の山菜のほのかな苦味のような独特な風味があります。

令和五年の新年初祈祷の特別授与品は「出雲そば」。出雲地方で伝統的な製法で打たれた手打ち感にこだわった乾麺です。その当時の江戸では江戸患い（脚気）が流行しておは脚気にならない」という巷説がそばの流行を後押ししました。諸説ありますが、○蕎麦は細く長いことから延命・長寿・家族の縁を長く続くように祈つたという説○蕎麦（生えていたる蕎麦）は風雨に叩かれて翌日陽がさせばすぐ起き直る事が健康の縁起を担う説など。地域ごとに様々な食べ方で親しまれる蕎麦。季節の節目に繰り返す年越しそばを。